

【仙台派遣、報告メモ】 2011年3月16日 8時 初版  
2011年3月18日 12時 追加、修正  
2011年3月19日 15時 追加、修正

横浜市立大学附属 市民総合医療センター、古川政樹

本報告は、震災発生後、48時間後に現地到着、2泊3日滞在し検案に従事した際の簡易メモで、私たちの後から現地に向かう方々のためにとりあえず記載、公開をしました。初版は数値等、不正確な部分もあったかも知れません。また、万一、表現等、適切でない部分などございましたら、お詫び申し上げます。速報性という観点からは役目を果たせたかと思しますので、今回の修正、追加をもって最終確定版とさせていただきます。

なお、この他に、1.『検案作業の詳細（とくに経験の浅い医療者、行政向け）』、2.『今後、同様の事態が生じた場合に向けて検討すべき課題等（勿論、二度と起きて欲しくないことですが）含めた、派遣の全体報告』は別途とりまとめ中です。

#### 【3月11日】

14時46分、東日本大震災（東北関東大震災）

#### 【3月12日】

12日、14大都市医師会連絡協議会の災害協定に基づき、仙台市医師会より札幌医師会を通じて、仙台市を除く13都市医師会に検案のための医師派遣要請、電子メールにてあり。衣食住は自己完結でとのこと。

横浜市医師会より横浜市立大学附属市民総合医療センターに1名の医師派遣依頼あり、古川が承諾（18時最終決定）。

#### 【3月13日—15日】

《13日 日曜日》

13日8時、横浜市医師会を出発。

15時、現地到着。地震発生から48時間。対応が早かったのは仙台医師会→横浜医師会というこまわりの効く連絡網が使われたためと思われ、この点は今後、重要なポイントになると思われる。

医師2名、事務1名、運転手1名。

ワンボックスカー、緊急車両の許可を受け、高速使用。

東北道、栃木県あたりから、道路の凹凸あり。段差の激しいところは簡便修復で対応。

一般車全面開通には時間かかりそう。

福島県内は新幹線架線の柱、傾き多く、こちらも復旧には長期間かかりそう。

S A等、栃木県南部までは営業。

14時頃、仙台市内。

建物倒壊や一般道路損傷自体は少ない。阪神淡路大震災と様子が異なるとのこと（同行した医師、阪神淡路大震災の経験あり）。

仙台南 IC で仙台南部道路に入り、名取川沿いを海岸方向に向かい走行、河口から7-8キロあたりまでは津波の痕跡確認。一部海水残存。

仙台南部道路から仙台東部道路に入ると段差など強く通行不可能で、一般道路へ。

信号等ほとんど停電。

携帯電話、メールはたまに通信可能。

15時

ご遺体安置場：仙台市北の利府町、グランディ・21 宮城県総合運動公園到着  
停電。自家発電装置で照明し、その中で作業

検案前ご遺体、100体ほど安置。

宮城県警の指揮下、他府県（警視庁、滋賀、岐阜など）検視チームと仙台市医師会医師（県警協力医師、歯科医師）が対応中。

札幌、名古屋医師会医師は既に到着。

2名で5例検案し18時終了。地元の方は11日から開始、12日は20時まで行ったとのこと。ボールペン、朱肉も持参物を使用。勤務先病院のゴム印があると良かった。

ご遺体についての発見場所住所が略記のためわからず、書類記載に、その都度、地元の方に確認必要。

ホテル確保、19時到着、ツイン（エキストラベッドでトリプル）に4人宿泊。1名は寝袋。電気、水は使用可、ガス使えないため暖房、風呂は使えず。建物内でも冷え込み強い。食事は途中で購入した、パン。ビールはホテルの自販機で購入。インターネット接続、備え付けのlan ケーブルで可。

22時就寝。

札幌医師会は同じホテル。名古屋医師会は秋保温泉を予約し、現地に行ったが、結局泊まられず、市内のビル内で一夜を過ごしたとのこと。救援者でも優先権はなし。私たちのグループに関してはさまざまな交渉事はすべて事務方が適切に対応、医師は検案に専念できた。

《14日 月曜日》

6時起床

朝食パン。

8時出発

途中、信号などほぼ復旧。通勤者多し。コンビニ、ガソリンスタンド、開いてるところ、開きそうなところは順番待ち列。スタンドは長蛇。

9時から18時検案。6-7グループで対応。昼休み1時間。昼食はパン。グランディ・21は電気は復旧。

2名で30体。全員溺水。外部損傷は少ない。高齢者多し。検案終了したご遺体を同じ館内の別に仕切られた場所で担当者が棺に収め安置。身元確認のためのご家族はまだ少数。

午後、法医学の専門家到着。宿泊は宮城県警により山形に用意と。片道1時間半。

19時ホテル着。

事務方、交渉し、シングル2つ追加確保。夕食、お湯は沸かせるので、お湯をいれて作る食品。しかしカップラーメン等は横浜でも入手できなかった。名古屋医師会が山形まで行き、コンビニ弁当購入、わけてもらう。

22時、4名ともベッドで就寝。

《15日 火曜日》

6時起床

朝食パン。

8時出発

道中は14日とほぼ同様

9時から12時まで検案。2名で10体。全員溺水。

朝、川崎市医師会医師、2名到着。神奈川県医師会派遣医師は岩手県釜石市に向かったとのこと。仙台市内と異なり相当の困難が予想される。

体育館全体にブルーシートを敷いていたので、搬送されるご遺体は今後、増加する模様。

検案作業のみ考えても大変な状況、混乱が予想される。

札幌医師会は車でなかったため、福島空港から帰る予定とのこと。

・少なくとも仙台市内はライフライン徐々に復旧の印象あり。

12時15分出発。

帰路、大きなトラブルはなし。

福島原発ともっとも近い箇所(二本松あたり、原発まで50キロほど)は13時30分頃、通過。

黒磯paは営業、暖かい麺類販売。

首都高に入り、葛西から新木場まで緊急車両も通行止めのため、その箇所のみ一般道利用。

18時病院着。衣服の被爆量チェック、異常ないことを確認し、解散。

以下、思いついたこと。

あるとよいもの。

通常、考えられるもののほか、

実際には使わなかったが手巻き充電ラジオ（電灯、サイレンつき、携帯充電可能）、あると安心。

パソコン無線接続用のイーモバイル。

携帯電話は今、全部そうかもしれないが、ワンセグ対応可能、緊急地震情報を受信できるものが必要。テレビ放送は行われていたが、ホテルのテレビは壊れていた。

さまざまな方面との連絡、情報収集が最も重要なので、ある程度 IT 機器使える人材が望ましい。

また、マネージメント能力の高い事務同行者必要。そうでないと、医療職が自分の役割に専念できない。

車内でパソコン、携帯など充電できる装置、必要。

事務局は災害優先電話持参。

高速のスタンドは少なくとも昨日（15日）は、栃木くらいまではあいていた。

一般道ではほとんど給油無理。近隣の人も高速のスタンドに灯油なども買いに来ていた。

緊急車両が並んでいても多くは軽油なので、一般車でガソリンを購入といえば、余り並ばないで済む。行きは可能なところで、その都度給油するのがベター。

今は車だと原発が心配。

安置所のみだったのでは、何ともいえないが、医療活動の現場が想像を絶する状況であるのは確かと思われる。

最後になりましたが、改めて被災された方々に、衷心からのお見舞を申し上げます。

以上